

2019年(平成31年)1月18日 金曜日

林業のICT 活用策を探る

信大など都内でシンポ

信州大(本部・松本市)や北信州森林組合(中野市)などの研究チームは17日、林業での情報通信技術(ICT)

利用を考えるシンポジウムを都内で開いた。写真。全国から林業や建設業の関係者約350人が参加し、国内林業の成長産業化を探った。

信大農学部(上伊那郡南箕輪村)の加藤正人教授(森林計測学)は、小型無人機ドローンを使って樹種や樹高を計測する独自技術を発表。データを基に選り出した木を林業機械で伐採する研究チームの試みを紹介し、「将来は伐採から搬出までを自動化できるとも感じている。技術を世界標準にしたい」と語った。

ほかに三菱総合研究所の小宮山宏理事長らが講演。ICTの活用による木材の効率的な調達・供給網の構築を探るパネル討論もあった。

信大や同組合は2016年に研究チーム「レーザーセンシングによるスマート精密林業コンソーシアム」を結成した。シンポは3回目。

